

## 大倉精神文化研究所創立者

おおくらくにひこ  
大倉邦彦 (1882年～1971年)



大倉邦彦は、明治15年(1882)佐賀県神埼郡西郷村(現神埼市)の素封家江原家に生まれ、上海の東亜同文書院を卒業後、大倉洋紙店に入社しました。社長の大倉文二に見込まれて養子となり、文二の死後に社長に就任します。

邦彦は、社長として事業を大きく発展させましたが、真の経済活動とは単なる利益追求ではなく、個人の成長の上に会社の発展があり、国家の繁栄があると考えていました。そして、教育の重要性を説き、私財を投入して、東京の中目黒に富士見幼稚園、郷里の佐賀県西郷村に農村工芸学院などを開設します。この考え方をより深め、さらに広く普及するため、神奈川県横浜市に大倉精神文化研究所を設立しました。

研究所は、戦中戦後の混乱期に何度も存亡の危機を迎えましたが、邦彦は私財をなげうって信念を貫き通して、研究所の維持発展に尽力し、昭和46年(1971)7月25日(三空忌)に89歳の生涯を閉じました。号を三空居士と称しました。

※詳細は別リーフレット「創立者大倉邦彦 プロフィールとその業績」をご覧ください。

## 研究所の沿革

大倉精神文化研究所は、昭和7年(1932)4月9日に大倉山の地に設立されました。現在の横浜市大倉山記念館は、研究所の本館としてこの時竣工したものです。

大倉邦彦は、所長として研究所の経営・指導にあたり、各分野の一流の研究者を集めて、学術研究を進めるとともに、精神文化に関する内外の図書を集めて附属図書館を開設しました。また、「神典」その他の多くの図書を編集・刊行するとともに、広く市民を対象とする精神教育活動にも努めました。

研究所は、昭和11年(1936)に財団法人となり、活発な事業活動を展開しましたが、第二次世界大戦の激化により、活動は一時中断を余儀なくされました。

戦後は、名称を「大倉山文化科学研究所」と改称し、事業を再開しました。そうした中で、昭和25年(1950)から同35年(1960)まで、附属図書館を国立国会図書館の支部図書館としたこともありました。

昭和34年(1959)に名称を「大倉精神文化研究所」に戻しましたが、昭和46年(1971)に創立者の大倉邦彦が亡くなると、経営は困難を極めました。

昭和56年(1981)、敷地を横浜市に売却して財政的基盤を確立し、同時に建物は横浜市に寄贈しました(平成3年横浜市指定有形文化財に指定)。平成16年(2004)には、研究所本館の建設関係資料4,546点が横浜市指定有形文化財に指定されています。

研究所は、平成24年(2012)4月1日付けで公益財団法人となり、現在も活発な事業活動を展開しています。



# 公益財団法人 大倉精神文化研究所

Okura Institute for the Study of Spiritual Culture

Okura Institute for the Study of Spiritual Culture

事業内容のご紹介

### 【交通アクセスのご案内】

東急東横線大倉山駅より徒歩7分



〒222-0037 神奈川県横浜市港北区大倉山二丁目10番1号

TEL 045-542-0050(代表) FAX 045-542-0051

TEL 045-834-6636(図書館)

TEL 045-834-6637(研究部)

HP <http://www.okuraken.or.jp>

E-mail [okuraseishinbunka@js6.so-net.ne.jp](mailto:okuraseishinbunka@js6.so-net.ne.jp)

📧 @okura\_institute



大倉精神文化研究所のホームページがご覧になれます

令和2年9月改訂第1版



# 大倉精神文化研究所 設立の目的

大倉精神文化研究所は「東西両洋における精神文化及び地域における歴史・文化に関する科学的研究及び普及活動を行い、国民の知性及び道義の高揚を図ることにより、心豊かな国民生活の実現に資し、もって日本文化の振興及び世界の文化の進展に寄与すること」(定款第3条)を目的としています。

# 事業内容

大倉精神文化研究所では、設立の目的を達成するために主に以下のような事業を行っています。

## 精神文化に関する研究及びその研究成果の公開に関する事業(定款第4条第1項第1号)

### 精神文化に関する研究とその成果の普及



創立者大倉邦彦は、学問とは実際の社会生活に役立つものでなければならないと考えていたことから、実用の学的研究を行っています。

また、大倉邦彦は日本の伝統文化を大事にしながらも、東洋文明の枠組みに囚われず、西洋文明の優れた部分も取り入れて、人間の心を豊かにする精神文化の創造を目指していたことから、東西文化融合についての研究も進めています。

研究成果は講演会や研究紀要等で公開しています。

### 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及



創立者大倉邦彦の思想や事績、研究所の設立から現代に至る沿革等に関する研究・調査を行っています。研究の基礎となる資料の収集、整理、保存、公開にも、研究と同様に重点を置いています。

研究成果は展示会等で公開しており、資料は附属図書館で閲覧出来ます。

### 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信



当財団では、研究成果を広く一般に公開するため、研究紀要「大倉山論集」を昭和27年(1952)より刊行しています。その他にも研究や講演の成果を書籍にして、数多く発行してきました。ホームページやTwitterでの情報発信も積極的に行っています。

## 地域における歴史・文化の研究及びその普及に関する事業(定款第4条第1項第2号)

### 地域における歴史・文化の研究とその成果の普及



研究所が立地している横浜は、近代以降に西洋文化受容の窓口となったことから、地域研究を進めています。

横浜市港北区域を中心とする地域資料の収集や整理も行っており、その成果は講演会や展示会、情報誌の寄稿等で公開しています。

### 地域社会との連携



行政機関や公共施設、地域団体等と幅広く連携し、各種イベントの開催、地域の歴史・文化に関する原稿の執筆、講演会・シンポジウム・地域散策等への講師派遣を行い、地域理解や地域文化の発展に寄与しています。

### 見学案内



見学依頼を随時受け付けていますし、地域でのイベント開催時に、大倉山記念館や周辺地域の見学案内等を行っています。

## 附属図書館の一般公開に関する事業(定款第4条第1項第3号)



附属図書館は、東洋と西洋の精神文化の融合を追求する図書館です。哲学・宗教(神道・儒教・仏教)・歴史・文学の分野を柱とした11万冊を所蔵しており、24コレクション、4万5千冊の貴重コレクションには「大倉邦彦旧蔵文庫」「タゴール文庫」、古文書研究家の「金沢甚衛旧蔵資料」、江戸後期の古文書や漢籍、写本等他にはない資料も多く含まれています。

また、専門書だけでなく大倉邦彦の目標とした思想「精神文化研究による社会貢献」を実現する図書館として、仏教・歴史・芸術・文学などの入門書も多数所蔵しています。どなたでも無料で利用出来ますので、お気軽にご来館ください。

### 附属図書館ご利用案内

開館日 火曜日～土曜日 9:30～16:30

休館日 日・月・祝日・年末年始(ホームページ等でお知らせします)

貸出 1人10冊2週間まで(どちらにお住まいの方もご利用になれます)

コピー 一般書:B5～A3サイズ(モノクロ1枚/20円・カラー1枚/80円) 貴重コレクション:別途お問合せください。

### レファレンス

カウンター・電話・E-mail等でお受けしております。

### 蔵書検索システム(OPAC)

PCやスマートフォンから蔵書検索が出来ます。

蔵書検索システムはこちらから

### 第2閲覧室

自習目的での利用も可能です。ご利用の際は、図書館カウンターにて手続きを行ってください。

お問い合わせ 図書館直通電話 TEL 045-834-6636

E-mail okuraken-toshokan@abox3.so-net.ne.jp

※詳細は別リーフレット「公益財団法人大倉精神文化研究所附属図書館 利用案内」をご覧ください。